

OF14：だれもが仕事を続けるために ―仕事とプライベートの両立方法について話し合おう―

日時：2023.9.11(月) 15:30-17:30

場所：第41回日本ロボット学会学術講演会会場(仙台国際センター 展示棟 E 室, オンラインのハイブリッド)

主催：日本ロボット学会 ダイバーシティ推進委員会

オーガナイザー：上田悦子(鹿児島高専), 香月理絵(東芝), 星野由紀子(川田テクノロジーズ), 植木美和(富士通), 宮田なつき(産総研), 山野辺夏樹(産総研), Gentiane Venture(東京大学), 岸宏亮(オリンパス), 細田 祐司((一社)日本ロボット学会), 村上 ちほ((一社)日本ロボット学会)

参加者：登録者数 28名, オンライン参加数 7名

コロナ禍を経て働き方が多様化し、仕事とプライベートを両立するための選択肢も増えてきました。本オープンフォーラム(以降OF)では、家事・育児・家族の転勤・趣味活動・日々の生活などのプライベートと、主に研究開発関係の仕事を両立するための方法について、体験談を交えながら、参加者と意見交換しました。両立に関する体験談・ご意見などを参加者からもお伺いして共有することで、両立のヒントや共感が得られたと思います。本OFでは現地参加と、オンラインでの参加が可能なハイブリッドで開催し、Google Formsを利用して事前アンケートおよび当日のオンラインからもご意見を受け付けました。以下にフォーラムの概要を簡単に報告します。

前半は「育児と仕事の両立について」をテーマに、2件の話題提供をいただき意見交換をしました。

1件目は、東北大学の瀬戸先生から、RSJ2023での会場内一時託児の実現に至った経緯とそのノウハウをお話しいただきました(図1)。お話では「一度の実施のみならず継続・発展が重要」という強いメッセージもいただき、次年度以降のRSJでの期待が膨らみました。アンケートでは「育児中に出張を制限していた」という回答が73%ほどで、さらに「学会中は託児があって預けられても、会場までの道中や宿泊先の夜が大変」というコメントも紹介されました。

意見交換では「天文学会など女性研究者が多い学会では、会場での一時託児は10年くらい前からやっていて、RSJでも実現できるようになってよかった」というコメントもいただきました。

2件目は、福岡工業大学の槇田先生より、ご自身が2回の育児休業を取得されたご経験をお話しいただきました(図2)。事前調整から休業期間の過ごし方などリアルな内容で、参加者には新たな気づきも多かったのではと思います。話題提供後、事前アンケートの「あなたの職場で育休をとった男性がいますか?」に対して「いる:64.7%」という結果が紹介され、参加者からは複数の部下が同じ月に育休取得の申し出があったという経験の紹介をいただきました。なるべく早くから、育休取得したいという希望を周りに伝えてもらえると、職場側もスムーズに対応できるということでした。

また意見交換の中で「若手研究者は引っ越しが多く、育児中ワンオペになって孤立しがち。ある時限界が来るのではないかという不安がある。皆さんはこの不安をどう乗り越えてこられましたか?」という切実な問いかけもあり、30代の若手研究者特有の悩みで、その部分のサポートがまだ十分ではないとい

う状況が浮き彫りになりました。経験に基づく様々な意見や「仕事は目一杯するという期待をし過ぎない」というスタンスが、雇用側に重要なのではないか？」という意見もありました。

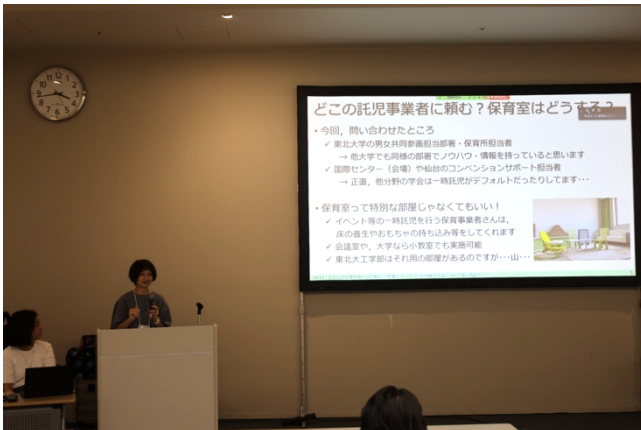


図 1：瀬戸先生からの話題提供



図 2：槇田先生からの話題提供

後半は「プライベートと仕事の両立について」について、オーガナイザー側から情報や話題提供したのちに、意見交換をしました。

最初に「仕事とプライベートの両立を可能にするための制度のあれこれ」について紹介したのち、具体的な例を参加者から紹介いただきました。特にコロナ禍でリモートワークが当たり前になったことで、育児しながらのフルリモートでの研究開発職に就かれている例を、その経緯と合わせてご紹介いただきました。ロボット研究者における、キャリアプランと研究のテーマ設定などについてディスカッションしました。

次の話題としては、「仕事とプライベートを充実させる（=人生を豊かにする）ために、面倒なことを楽にするには」という話題までも広がりました。ミールキットや家事サービス、便利家電など、様々な家事 Tips についての情報交換で大いに盛り上がりました。

OF の最後には、オーガナイザーの上田先生から、「RSJ のダイバーシティ推進委員会では、様々な立ち位置の人が繋がって意見交換することで、様々な実践につながってもっと豊かな研究者ライフになるはず」というまとめでクロージングになりました。（図 3）



図 3：会場の様子

参考資料： 本 OF の話題を検討するため、事前アンケートを実施いたしました。アンケート結果を PDF で共有いたします。